

会 議 録	
会 議 名	令和7年度 第2回丸亀市行政評価委員会
開催日時	令和7年7月10日（木）13:30～16:50
開催場所	丸亀市役所 4階特別会議室
出席者	出席委員 板倉享平、岩倉洋平、高濱和則、木村奈美、嵯峨根真千子 欠席委員 鹿子嶋仁 事務局 市長公室長 栗山佳子 （市長公室政策課）副課長 藤井慶子、主査 大川智 （総務部財務課）副課長 石川真司
議 題	1. 施策評価について 2. その他
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
藤井副課長	ただ今より丸亀市行政評価委員会を開会します。議事に入る前に、本日の会議資料を確認します。 会長欠席のため以後の議事につきましては、副会長に議長をお願いします。
高濱副会長	それでは、議事に入る前に、現在、委員6名のうち5名の出席をいただいていますので、丸亀市附属機関設置条例に基づき、会議が有効に成立していることを報告します。 それでは、施策評価の方法などについて確認しておきたいと思いますので、事務局より説明をお願いします。
大川	<資料に基づき説明>
高濱副会長	最初に「1. 子どもの教育の充実」です。
板倉委員	I C T活用のリテラシーを教員が身につけることは、児童生徒に教えることにつながる重要なことであり、急務と考えるので、D評価としました。
嵯峨根委員	板倉委員の意見に賛成ですが、成果指標も目標値に対して大きく下回っていない状況にあり、また、一つの取組の進捗が芳しくないことを理由に基本施策の全体の評価としてDをつけるのはどうかと考えC評価としました。
板倉委員	私自身も同様のことは思いましたが、内部評価がほぼC評価であることに対し、外部評価も同じC評価にすることは、政策評価をする意義がなくなってしまうのではな

	いかという懸念もあり、また、一層注力していただきたい意味も込めてD評価としています。
高濱副会長	これから委員会としての評価を採決していきますが、各委員の意見は報告書に明記しますので、今後の市政運営に反映させていきたいと思っています。
木村委員	児童生徒を取り巻く環境が複雑になる中、令和7年度よりスタートした重層的支援体制整備事業に学校教育という言葉が見当たらなかったことから、まだまだ横の連携が足りないと感じD評価としました。
岩倉委員	各施策において、深掘りすることが難しいので、定量的な数値と担当部局の定性的なコメントで評価せざるを得ません。木村委員の横串の連携は施策が異なるため、評価としては切り分けるべきだと考えますが、貴重な意見として報告書に明記すべきことだと思います。
高濱副会長	過去、学校現場にパソコンを導入する際には、時間外労働が増えてしまうなど、短絡的な意見が多くありましたが、次第に整備が進むことで日常業務を効率化するためには欠かせないものと認識されるようになりました。GIGAスクールをはじめとする時代に合わせた取組を進めることで、教職員や児童生徒、ひいては地域全体にも恩恵がいきわたるのではないかと思いますので、引き続き、こどもたちを良い方向に導いていただけるようお願いします。 それでは採決に入ります。＜C：3、D：2 判定C＞ 次は「2. 子育て支援の充実」です。
木村委員	新しく「こども家庭センター」が設置されましたが、「あだあじょ」の事業規模が縮小し、就学後に相談するところが分からないとの声も多く、本当のニーズに応えられていないと思いD評価としました。
岩倉委員	鹿子嶋会長のB評価は、児童福祉法改正に対する体制整備がなされたこと、成果指標が目標値を上回っていることが理由だと推察されます。また、木村委員の相談体制の縮小は今後の課題として重要な意見だと思います。
高濱副会長	10月1日時点では待機児童が発生しているのが、4月1日になると0人になる理由と、この時点を指標にしている理由を教えてください。
栗山公室長	小中学校とは異なり幼稚園や保育所、こども園では、年度途中から入所が可能となっています。また、指標の待機児童数は、国や県の調査に基づくもので、10月1日時点の人数も公表されています。 市の方針としては、年度途中も含めて待機児童0人を目指し保育士を確保していくことが理想ですが、年度途中の入所者数については、保護者の就労状況など多岐にわ

	たる要因によって変動します。そのため、持続的に一定数が必ず入所するとは限らず、長期的な視点で人員体制を計画することが難しい部分もあります。特に私立の場合は、経営面での問題もあるため、さらに計画建てが難しいと考えます。 待機児童数の推移などのデータから見通しを立て、それを基に人員体制を整える努力はしていますが、地域や状況によっては、予想を上回る入所希望があるのが現状で、その対応が課題となっています。
高濱副会長	待機児童の定義として、他に空きはあるが、自分の希望する保育施設に入ることができなかったため、待機児童となった児童は含まれていますか。
栗山公室長	国の調査では、他に空きがあるにも関わらず、特定の保育施設のみを希望して入所できない者は、待機児童に含めないこととしています。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：4、D：1 判定C＞ 次は「3. 環境に配慮した社会づくり」ですが、全員C評価としていますので採決に入ります。＜C：5 判定C＞ 次は、「4. 廃棄物の適正処理と再資源化」です。
板倉委員	不要という訳ではありませんが、啓発活動によりどの程度ごみの減量化につながったのか、その効果が不透明であり、検証が必要と感じています。また、その効果を市民に分かりやすく伝え、納得感を得ることが今後の課題と考え、D評価としました。
高濱副会長	SDGsの観点からプラスチックへの風当たりが強くなり、減量化や適切な管理が注目されていますが、一番は決められたルールを守り適切な回収につなげることが重要です。そのためにも啓発活動には一定程度の効果はあると思います。
板倉委員	啓発活動は必要と考えていますが、それだけではなく他の取組と合わせて行っていくことが重要と考えています。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：4、D：1 判定C＞ 次は、「5. 緑のまちづくりの推進」です。
板倉委員	芝刈りなど公園のメンテナンスが行き届いていると考え、B評価としました。
高濱副会長	これまでは主に団塊の世代が公園の整備をボランティアでしていましたが、その世代が後期高齢者を迎え担い手が不足することが懸念されます。持続可能な公園整備に向けた仕組みづくりが今後の課題だと思います。
岩倉委員	新たな公園の整備などインフラに注力されている部分と、緑化推進事業の人数が増加傾向にある部分を評価しています。また、公園の維持管理に向けては、在住外国人

	の参画を促す仕組みを検討していただきたいです。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜B：3、C：2 判定B＞ 次は、「6. 土地利用と住環境の充実」です。
板倉委員	アンケート結果から中心街の魅力が乏しいことが伺えるため、若者の流出抑制に向け活性化は急務と考えています。 また、商店街の人から、復興に向けて多様な人が活動しているが足並みがそろっていないことを聞きました。バラバラに活動するのはもったいないので、市が率先して取りまとめていく必要性を感じています。
高濱副会長	商店街の活性化は、積年の課題であり、ここだけ切り取ると低く評価せざるを得ません。売却の意向調査など、一歩踏み込んだ実態調査が必要だと思います。
木村委員	未来ビジョンはどういうものですか。
大川	市長公約の一つである丸亀城から丸亀港、ひいては塩飽諸島までを含めた中心市街地の活性化やウォーカブルなまちづくりの実現に向けたコンセプトをまとめたものになります。このビジョンは、丸亀市だけではなく、民間やまちの活性化に携わる多様な人材で構成されたプラットフォームで策定しました。具体的な取組の記載はありませんが、コンセプト実現に向けこれから取り組んでいきます。
高濱副会長	これまでいろいろ取り組んできたにも関わらず何も変わらなかった経緯を踏まえると、行政が何かしらの強制力を発揮して問題解決に挑む必要があると思います。
嵯峨根委員	商店街の人からは、土地の所有権が共同名義になっていたり、名義人の所在が分からなかったりと、難しい所有のされ方をしていると聞いています。
高濱副会長	固定資産税の納付元を追っていけば相手方は分かることです。建物を解体すると固定資産税が上がるデメリットなどを踏まえ、立ち退きした場合のメリットなどを見出していかなければなりません。
嵯峨根委員	まちあかりなど商店街でイベントをしている時には、人がたくさん集まってきているのでポテンシャルはあると思っています。
岩倉委員	例えば高松の商店街を変えたように、強力なリーダーシップを誰かが発揮してこの問題に望まなければいけないと改めて感じています。
木村委員	観光客が暗い商店街の道を歩いているところを見るとすごく悲しい気持ちになります。「基本方針Ⅱ 安心して暮らせる」に向けても、まちに灯りをとすことは重要

	だと感じています。
高濱副会長	皆さんの意見をお聞きすると、全体としての施策評価はC評価ですが、「No.17 中心市街地の活性化」だけ切り取ればD評価になります。No.17 の取組は非常に重要だと委員会としても認識していますので、施策全体の評価とは別に評価をしたいと思いたすが良いでしょうか。 <了承>
高濱副会長	それではまず、No.17 を除く基本施策の採決に入ります。< C : 5 判定C > No.17 の採決に入ります。< D : 5 判定D > 報告書を作成する際には、この評価を区別して掲載するようお願いします。 次は、「7. 公共交通の充実と離島振興」です。
岩倉委員	スマートモビリティ導入の検討段階から移行していくことが今後の課題とは思っていますが、離島振興施策が成果に結びついている点を踏まえ、B評価としました。
高濱副会長	A I デマンド交通の実証実験を中讃定住自立圏で行う予定はありますか。
大川	現時点ではありません。各自治体において手探りで取り組んでいる状況です。
高濱副会長	デマンド交通はこれからの時代に必要となってくるツールの一つであり、既存のコミュニティバスとどうつなげていくかが課題です。団塊の世代が免許返納し公共交通に頼らざるを得ない状況になった時を見据え議論をしていかなければなりません。
板倉委員	公共交通機関は利用している方の基幹的な部分と考えています。離島振興の移住者数については、住み続けてもらうことが重要ですので、その数だけで評価するのは疑問が残ります。「No.20 スマートモビリティの推進」が急務であること、移住者数の状況も観察していく必要があることを踏まえD評価としました。
嵯峨根委員	実績値からB評価としました。島への移住者が住み続けていくのか未知数な部分はありますが、これだけ増えている点は評価できると思います。A I デマンド交通はこれからのツールですので、それまではコミュニティバスの更なる活用を考えていかなければなりません。先日、私もコミュニティバスを利用して見たところ、バス停に屋根がなく長時間汗を流しながら待ったことから、バス停に日よけを設置するなど利用者に寄り添った対応も必要ではないかと思いました。
板倉委員	以前居住していた京都と比較すると、コミュニティバスのダイヤやバス停の設備は、自家用車を持っている前提のもと設定されていると思わざるを得ず、改善が必須だと思いたすので、施策の充実が望まれます。

木村委員	コミュニティバスの減便により、通学への影響が見られています。高齢者世代だけではなく、現役世代の若者に利便性を感じてもらわないといけないと思います。
高濱副会長	それでは、採決に入ります。＜B：2、C：2、D：1 判定C＞ 次は、「8. 道路環境の整備」です。
板倉委員	施策9を除き、施策8から13まで共通してですが、移住者の目線から住環境は非常に充実していると感じていますので、B評価としています。
岩倉委員	私も移住者の目線で、自動車の交通量がそんなに多くなく、道路環境の整備が他の地域に比べると充実していると思います。
嵯峨根委員	ドライバー目線として道路環境は充実していますが、自転車道や歩道の整備はまだまだこれからだと思います。
高濱副会長	香川県知事は元国土交通省の職員で国へのパイプもあることから、少ない自転車道や子育て世代向けの歩道の整備など、経済界の立場からも引き続き、要望していきたいと思います。愛媛県のしまなみ海道のように外国人観光客は自転車に乗ることを好みますので、自転車道が整備されているだけで過ごし方が変わってくると思います。
木村委員	コミュニティバスに自転車を載せられるサービスがあれば良いと思います。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜B：1、C：4 判定C＞ 次は、「9. 生活排水処理施設の整備」ですが、全員C評価としていますので採決に入ります。＜C：5 判定C＞ 次は、「10. 災害に強い都市基盤の整備」ですが、特にないようですので採決に入ります。＜B：1、C：4 判定C＞ 次は、「11. 危機管理体制の強化」ですが、全員C評価としていますので採決に入ります。＜C：5 判定C＞ 次は、「12. 消防・救急体制の充実」です。消防団員数の目標を698人としていますが、これから担い手が減少していく中、指標を人数にするのではなく、消防力といった能力値に置き換えるべきではないかと思います。
嵯峨根委員	住宅用火災警報器の設置率の伸びや、今後の展望などが十分に分析されていることを踏まえB評価としました。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜B：5 判定B＞ 次は、「13. 交通安全・生活安全の充実」です。運転免許証の自主返納が多ければ良いという訳でもなく、公共交通がついていかないといけないと思います。

板倉委員	交通安全は、運転者の心持やマナーに左右され、政策が届かない部分が多いにも関わらず、交通事故死者数がコロナ禍以降も4人を下回っていることからB評価としました。
高濱副会長	交通安全は死傷者よりも違う指標を入れるべきではないかと思います。
嵯峨根委員	運転手のマナーアップや啓発は急務だと思います。横断歩道で停止しない、方向指示器を出さないなど目に余るものがあります。
板倉委員	交通事故数は、経年の推移で着実に減少しているので政策としては間違っていないと思いますし、その効果が波及しているものと考えています。
岩倉委員	私も板倉委員と同意見で、人口減少による事故数の減少ではなく、長いスパンで推移をみていくと確実に減少しています。
高濱副会長	マナーアップは、こどもの時から教えていくしかないと思います。 それでは採決に入ります。＜D：5 判定D＞ 次は、「14. 農林水産業の振興」です。
嵯峨根委員	気候変動に伴う漁獲変動等の調査が必要と考えD評価としましたが、総合的に考えるとC評価で良いと思います。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：5 判定C＞ 次は、「15. 商工業の振興」です。
板倉委員	インターンシップが就職に結びついていない現状をなんとかしないといけないのと同時に、学生の就職状況を踏まえると、地元の良いと思った企業に就職しても給料が安く生活ができないと考える人が多いのではないかと推測しました。給料の部分を政策的に取り組むことは難しいですが、自治体の仕事は、人口を増やして税収確保につなげ、公共サービスを提供してくことだと思っていますので、若い世代の地元就労につなげていくためにも、インターンシップ制度の充実は必要だと考えています。
高濱副会長	インターンシップやその類似の制度は、自治体だけではなく大学など様々なところで取り組まれています。企業としてもこれまで説明会などを都市部などで行ってきましたが、地元就労になかなか結び付いていかないのが現状です。 そこで、市独自で、10月第3月曜をこどもデーに指定し小中学校を休みとすることに合わせ親御さんに有給休暇を取得いただき、こどもと一緒に過ごしてもらうキッズウィークに取り組んでいます。ウィーク中には、地元の企業を知ってもらう大きなイベントを実施しており、こどもはもとよりその親御さんにも地元企業を知ってもらえる機会を提供することで、将来的な地元就労につなげていきたいと考えています。

木村委員	小中校ではキャリアパスポートに取り組んでおり、自分の将来を考える良い取組だと思う一方で、学校からやらされている感が否めず、本来の目的の達成に十分につながっていないのがもったいないなと感じています。
嵯峨根委員	これまでの行政評価委員会でも意見しましたが、企業と学生のニーズがマッチしていないのが長年の課題だと考え、D評価としています。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：3、D：2 判定C＞ 次は、「16. 観光・交流の促進」です。
板倉委員	指標に宿泊者数がありますが、観光客かビジネス客か区別できていないのであれば指標を改める必要があるのではないかと思います。
木村委員	来訪者満足度が低調なのは、中心市街地が活性化されていないからだと思います。
岩倉委員	交流面では学術交流に取り組んでみてはどうかと考えています。丸亀市には、四国能力開発大学校がありますので、連携した取組を期待しています。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：3、D：2 判定C＞ 次は、「17. 地域保健・医療の充実」です。特定健診受診率の目標値とのギャップが大きすぎる点が気になりました。
岩倉委員	成果指標が全体的に低調であることを踏まえ、D評価としています。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：2、D：3 判定D＞ 次は、「18. 高齢者福祉の充実」ですが、鹿子嶋会長以外全員C評価としていますので採決に入ります。＜C：5 判定C＞ 次は、「19. 障がい者福祉の充実」です。
岩倉委員	障がい者福祉の実情を十分に把握できていませんが、障がい児への相談機能の強化など成果指標が順調に推移している点を踏まえ、B評価しています。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：5 判定C＞ 次は、「20. 暮らしを支える福祉の充実」ですが、全員C評価としていますので採決に入ります。＜C：5 判定C＞ 次は、「21. 歴史的資源の保存と活用」です。
板倉委員	歴史・文化的な資源を保存・活用していくことは非常に重要なことです。資源自体に経済的な効果が見込めなくなったとしても、その歴史・文化を守っていくところに予算を投入し、修理していくことは評価できるため、B評価としました。

高濱副会長	市指定文化財の修理件数を成果指標にあげていますが、目標値に到達することは難しそうで、その理由は1次評価を見ても分かりません。また、石垣崩落工事も掘削するたびに新しい石垣が見つかることにより工期が大幅に遅れています。 それでは採決に入ります。＜B：2、C 3 判定C＞ 次は、「22. 文化芸術の振興」です。
板倉委員	猪熊弦一郎現代美術館や瀬戸内国際芸術祭など、ポテンシャルがあるにも関わらず活用が不十分であり、顧客を取り逃がしていると考え、D評価としています。
岩倉委員	板倉委員と同意見で、インフラは整っていると思いますので、文化資源の活用に注力していくべきだと考えます。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜D：5 判定D＞ 次は、「23. 生涯学習活動の推進」ですが、全員C評価としていますので採決に入ります。＜C：5 判定C＞ 次は、「24. スポーツの振興」です。
板倉委員	香川丸亀国際ハーフマラソン大会をはじめとするイベントや、県立競技場、アーバンスポーツパークなどの体育施設が充実している点からB評価としました。
岩倉委員	アーバンスポーツパークは県内随一の施設であり、また、丸亀ハーフのジャパンプレミアハーフシリーズへの加盟など、今後の発展が期待できます。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜B：4、C：2 判定B＞ 次は、「25. 人権尊重社会の実現」です。
板倉委員	研修に参加するだけで人種差別がなくなるわけではありませんので、成果指標を見直す必要があると思います。また、インターネットやSNSによる人権侵害への対応は急務だと考えます。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：5 判定C＞ 次は、「26. 男女共同参画社会の実現」です。
板倉委員	先進国において、女性の社会進出がどれだけ進んでいるかが出生率に大きく寄与することがすでに研究で分かっており、女性管理職の割合を伸ばすことは重要だと思います。その一方で、女性の社会進出を促進するのと同時に、従来の男性的な働き方の見直しをしていかなければ、真のワーク・ライフ・バランスの実現にはつながらないと思いますので、男女分け隔てなく推進していただきたいと思います。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：4、D：1 判定C＞

	次は、「27. 情報発信と地域情報化」です。
板倉委員	YouTube やSNSの活用を否定する訳ではありませんが、市の政策として真に必要なのか疑問です。YouTube の視聴回数を増やそうと思えば常に新しいコンテンツを発信し続けることが定説化しており、それは市がやるべきことではないと思います。市としては、ホームページでしっかりと情報発信すれば良いとも思いますので、情報発信の手法を根本から見直した方が良いのではないかと思いますD評価としています。
高濱副会長	団塊の世代はデジタルに不得手ですが、先々の広報紙のあり方をどうするか議論しなければなりません。私たちの身の回りにはあまりにもたくさんの情報を得る手段があり、どのツールを活用していくかも課題と考えています。
板倉委員	必要のないものの判断も非常に重要だと思います。何でもデジタル化しなくとも、例えば紙の広報紙であればその記事をきっかけに家庭に会話が生まれたりすることなどから、必ずしも流行りに乗らなくても良いという考えもありますので、議論を重ねツールを取捨選択していただきたいです。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：4、D：1 判定C＞ 次は、「28. 市民参画と協働の推進」ですが、全員C評価としていますので採決に入ります。＜C：5 判定C＞ 次は、「29. 地域コミュニティの活性化」です。自治会加入率を目標値にあげていますが、加入している大半は昔から入っている人で今後減少していくことが目に見えており、維持することも困難です。現状を踏まえ目標値をどう設定するのかなどの議論が重要です。
木村委員	担い手不足の中、地域のコミュニティでは、多岐にわたる地域活動にがんばって取り組んでいただいているのをD評価とするのは忍びないと思いました。
高濱副会長	自治会を中心とした活動のあり方の見直しは必要です。地域の担い手不足の中、自治会の加入を促進していく手法は今の時代にそぐわないと思いますので、コミュニティが一つになれるような新しい体制の整備をしていくとともに、それに伴い新しい成果指標の設定を検討していただきたいと思います。
岩倉委員	木村委員は実際に活動されているプレーヤーを見ているのだと思います。私が着目したのは、地域コミュニティ衰退に歯止めをかけるには、物理的なコミュニティだけではなく、インターネットを活用したネットワークづくりなどが必要ではないかということです。高濱副会長のご意見のとおり、今の時代に合った新しい手段による体制づくりが重要と考えています。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜C：2、D：3 判定D＞

	次は、「30. 財政運営の効率化」です。
板倉委員	ボートレース事業の収益が年々伸びていることは非常に良いことではありますが、それに依存しすぎていることに不安を感じています。
石川副課長	ボートレース事業の収益金は臨時的な収入であり、経常的に使う予算とは別と認識しています。今後ボートレース事業の経営がどうなっていくか不透明な部分である中、経常経費に充てていくのは難しいと財政部局として考えています。
岩倉委員	実質公債比率が増加するのはある程度やむを得ないところだとは思いますが、何より市民への説明責任を透明性を持って果たすことができるかが重要です。
高濱副会長	それでは採決に入ります。＜B：4、C：1 判定B＞ 次は、「31. 行政運営の最適化」です。
板倉委員	デジタル職員の採用人数が毎年1人になっていますが、それで十分なのか疑問に思います。私も大学においてデジタル分野の講義を一手に任されている部分があり、少ない職員に過度な負担となっているのではないかと懸念しています。
栗山公室長	デジタル職員の募集を毎年出していますが、応募が少なかったり、採用まで至らなかったりといった事情があります。また、デジタル人材の不足は自治体だけの問題ではなく、民間でも不足しており奪い合いのような状況です。 これからは、民間に任す部分と市職員でやっていくことを分けていく必要があると思います。また、専門的とまではいかないとしても、ある程度活用できる人材を育てていき、日常の業務改善につなげていきたいと考えています。
高濱副会長	以前は会社内でシステム開発を何年もかけて行っていましたが、今は外部から導入し社員はその使い方を分かれば良いという考え方に変わってきています。いずれにしても、デジタル人材はこれから時代に必要だと思います。 それでは採決に入ります。＜C：4、D：1 判定C＞ 以上で31施策の評価は終了しました。言い残した意見などがありますか。
岩倉委員	中心市街地の活性化で都市型開発を進めるのであれば、丸亀市側から調査をお願いするなどのアクションを起こしたら良いと思います。
高濱副会長	商店街を復活させることが必ずしも正解とは言いませんが、ビジネスホテルやマンションなどがルールもなく乱立している状況は改善していただきたいです。マンションができることにより、丸亀城が見えなくなるなどの弊害が出てくると思いますので、開発許可をどうしていくのか検討する必要があると思います。

石川副課長	商店街周辺は商業地区のため高さ制限は現状なく、容積率によって開発許可の可否が判断されています。
高濱副会長	現在、規制するものがないのであれば、条例を制定するなど対応策をご検討いただければと思います。 他に意見ありませんので、以上で議事は終了とさせていただきます。その他で、事務局より何かありますか。
大川	<今後の日程について説明>
高濱副会長	それでは、本日の会議を終了します。 (会議終了)